

国土交通省

バリアフリー化推進功労者 大臣表彰式



 国土交通省

【お問い合わせ先】 〒100-8918 東京都千代田区霞が関2丁目1番3号
国土交通省総合政策局安心生活政策課 TEL: 03-5253-8111 (代)
この冊子の作成にあたっては、「UD書体」「カラーUD」を使用しています。

平成27年1月

 国土交通省

目次

■ プログラム	2
■ 国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰について	3
■ 講 評	4
秋山 哲男 委員 (中央大学 教授)	
高橋 儀平 委員 (東洋大学 教授)	
三星 昭宏 委員 (関西福祉科学大学 客員教授)	
■ 受賞者事例報告	
・グループ全体で継続的に進めるユニバーサルデザインのスパイラルアップ	6
(イオンモール株式会社)	
・ユニバーサルデザインに配慮した「人にやさしい」駅前広場の再整備	8
(川崎市)	
・国宝指定を受けた城郭の保存修理観覧時を含むバリアフリー化	10
(姫路市)	
・ハード・ソフト両面における温泉地のバリアフリー化	12
(佐賀嬉野バリアフリーツアーセンター)	
・空港を観光拠点とするユニバーサルツーリズムの多面的な活動	14
(特定非営利活動法人バリアフリーネットワーク会議)	

プログラム

〔平成27年1月16日(金)〕

● 選考委員からの講評

13:40～14:00

中央大学 教授	秋山 哲男 氏
東洋大学 教授	高橋 儀平 氏
関西福祉科学大学 客員教授	三星 昭宏 氏

● 受賞事例報告 ～受賞者より～

14:00～15:10

イオンモール株式会社

【グループ全体で継続的に進めるユニバーサルデザインのスパイラルアップ】

「全てのお客様に安心して安全なお買い物をしていただく」ことを目標に、グループ全体で継続的なバリアフリーのスパイラルアップの取り組みを進めており、シンボルカラーによるエリア分け、身障者用駐車スペースの事前利用登録（不適正利用の排除）などの取り組みを行っている。

川崎市

【ユニバーサルデザインに配慮した「人にやさしい」駅前広場の再整備】

施設の老朽化や歩行者の移動の円滑化等が課題となっていた川崎駅東口駅前広場について、ユニバーサルデザインに配慮したバリアフリー環境整備をキーワードに再整備を進め、全国初のUDタクシー専用乗り場の整備などを実施した。

姫路市

【国宝指定を受けた城郭の保存修理観覧時を含むバリアフリー化】

城郭であるため坂や階段が多く、また文化財保護の観点から対応が難しい歴史的建築物である国宝「姫路城」において、車椅子による見学を可能とするなど、大規模改修を契機としたバリアフリー整備に取り組んだ。

佐賀嬉野バリアフリーツアーセンター

【ハード・ソフト両面における温泉地のバリアフリー化】

市や観光協会等と連携・協力し、高齢者や障害者でも温泉旅行を楽しむことができるよう、車椅子でも宿泊・入浴可能なように旅館の客室をバリアフリー改修するとともに、容易に脱着可能なUD浴衣の開発や入浴介助を行うなど、嬉野温泉のハード・ソフト両面でのバリアフリー化を進めている。

特定非営利活動法人バリアフリーネットワーク会議

【空港を観光拠点とするユニバーサルツーリズムの多面的な活動】

沖縄の観光玄関口である那覇空港において、日本初の空港内観光案内所「しょうがい者・こうれい者観光案内所（沖縄バリアフリーツアーセンター）」を設置し、車椅子の貸出やバリアフリー情報の提供のほか、沖縄独自のバリアフリーガイドラインを作成するなど、障がい者・高齢者等の沖縄旅行をサポートするワンストップ相談窓口として、沖縄の観光バリアフリーを推進している。

● 表彰状授与

15:30～16:00

国土交通省バリアフリー化推進功労者 大臣表彰について

国土交通省では、平成18年12月施行の「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）」の趣旨を踏まえ、公共交通機関、建築物、道路などの総合的かつ一体的なバリアフリー化を進めるとともに、国民のバリアフリーに関する意識啓発にもより一層努めております。

このため、国土交通分野におけるバリアフリー化の推進に多大な貢献が認められた個人又は団体を表彰し、優れた取り組みについて広く普及・奨励することを目的として、平成19年度に、国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰制度を創設しました。

第8回となる今回も多く優れた取り組みが推薦され、なかでも特に優れた取り組みを大臣表彰することとなりました。今後とも、この制度により優れた取り組みを普及・奨励することによって、国土交通分野におけるバリアフリー化に向けた取り組みがより一層推進することを期待しております。

表彰対象

バリアフリー化の推進に向けて国土交通分野における多大な貢献が認められ、かつ顕著な功績又は功労のあった個人又は団体です。

選定方法

国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会において、本省内部部局や地方局等から推薦のあった候補案件より選考し、最終的に国土交通大臣が決定します。

国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会

国土交通省バリアフリー化推進功労者表彰選考委員会の委員は、次のとおりです。

秋山 哲男	中央大学	教授
高橋 儀平	東洋大学	教授
三星 昭宏	関西福祉科学大学	客員教授

第8回受賞者の決定

23候補者に対する選考委員会の審査を経て、大臣表彰として、5件の受賞者を決定しました。

第8回となる今年度の表彰においては、全国各地から23件のご推薦をいただきました。全国において、着実にバリアフリー化への取組みが展開されつつあることがうかがえます。

全23件は、ハード面（施設整備等）からソフト面（支援活動等）に渡る幅広い取組みを推薦頂きました。今年の傾向としては、ハード面での取組みが比較的多く推薦されています。

個々の推薦案件を見ますと、商業施設・公益施設・学校など様々な建築物のバリアフリー化や、駅周辺・観光地・温泉地のバリアフリー化に関する取組みが見られます。中には、城郭などこれまで事例があまりなかった分野の取組みも見られます。他にも、バリアフリー情報の提供や障害者のスポーツ体験などソフト面の取組みも見られます。

このように、バリアフリー化の取組みが幅広い分野へ広がってきていることが感じられました。

表彰者の選定に当たっては、事業の新規・先進性、波及・影響度の他、高齢者・障害者等の当事者参加が確実に図られていること、地道な取組みであっても根気強く継続的に行っていること、また様々な主体間の意見調整など困難な



秋山 哲男 委員
(中央大学 教授)

事業をやり遂げたことなどについて考慮の上、評価しました。

「イオンモール株式会社」は、「全てのお客様に安心して安全なお買い物をしていただく」ために、20年前から全店でハートビル法の認定を目指してバリアフリー・ユニバーサルデザインに取り組み、登録制の障害者専用駐車場システムの導入など先進的な取組みをはじめとして、今後の高齢化社会も見据えたバリアフリー化の推進にグループ全体で継続的に取り組まれています。こうした取組みを進めた点を高く評価し、表彰することとしました。

「川崎市」は、施設の老朽化や歩行者の移動の円滑化等が課題となっていたJR川崎駅東口駅前広場において、移動困難者への対応をユニバーサル視点に立って取り組まれました、歩行者、バスを優先する駅前広場再編整備計画を策定し、一般利用者のみならず、障害者・高齢者の移動円滑化にきめ細かく配慮した、これまでの都市計画の流れと一線を画する「人にやさしい」バリアフリー化整備に取り組まれました。こうした取組みを進めた点を高く評価し、表彰することとしました。



選考風景

「姫路市」は、国宝であり世界文化遺産でもある「姫路城」において、文化財の保存修理の現場を全国ではじめて公開する見学施設「天空の白鷺」を開館し、エレベーターや身障者用仮設トイレを整備するなどして車椅子利用者でも見学可能な環境を整えるとともに、城内のバリア軽減策としてスロープの設置、路面補強、介助専門員の配置などを行われました。このように、文化財保護の観点からハード整備によるバリアフリー化が困難な城郭における取組みを進めた点を高く評価し、表彰することとしました。

「佐賀嬉野バリアフリースターセンター」は、日本三大美肌の湯として有名な佐賀県・嬉野温泉において、市や観光協会等と連携・協力しながら、温泉地のバリアフリー化をハード・ソフトの両面で進めてきたことにより、これまで温泉旅行をあきらめていた高齢者や障害者などの受け入れを可能とされました。このように、温泉地のバリアフリー化モデルを構築したことは、他地域の温泉に対して大きな示唆をもたらしている点を高く評価し、表彰することとしました。

「特定非営利活動法人 バリアフリーネットワーク会議」は、分野・組織の壁を越え一貫し



高橋 儀平 委員
(東洋大学 教授)



三星 昭宏 委員
(関西福祉科学大学 客員教授)

て障害者の立場に立ち、沖縄観光のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化に継続的に取り組んでおり、那覇空港に設置した日本初の空港内観光案内所である「しょうがい者・こうれい者観光案内所」は、単なるバリアフリー案内所を超えた総合的なバリアフリースター援助システムの空港窓口として優れた機能を有しています。こうした、窓口を拠点とした多面的な活動により、ユニバーサルツーリズムの推進において全国の模範となるような取組みを進めた点を高く評価し、表彰することとしました。

今回推薦頂いたものには、それぞれの特徴ある取組みも多く、今回受賞とならなかったものにも、優れた取組みがありました。

受賞された方々も、また、残念ながら受賞とはならなかった方々も、引き続きこのようなすばらしい取組みを継続的に進めていただくことを期待するとともに、このような各分野における先進的な取組みが参考となり、我が国の生活環境の一層のバリアフリー化が進展することを、選考委員一同、祈念しております。

<選考委員一同>

講評

受賞者は、「全てのお客様に安心で安全なお買い物をしていただく」ために、20年前から全店でハートビル法の認定を目指してバリアフリー・ユニバーサルデザインに取り組み、登録制の障害者専用駐車場システムの導入など先進的な取り組みをはじめとして、今後の高齢化社会も見据えたバリアフリー化の推進にグループ全体で継続的に取り組んでいる。こうした取り組みを進めた点を高く評価し、表彰することとした。

受賞者の取組み

■ 取組みの概要

イオングループは、「全てのお客様に安心で安全なお買い物をしていただく」ために、20年前から全店でハートビル法の認定を目指し、「イオンモール・ユニバーサルデザイン・ガイドライン」を独自に作成するなど、バリアフリー・ユニバーサルデザイン化に取り組んでいる。また、今後の高齢化社会への対応として、広大な面積と建物が分散する大規模商業施設において、「迷わない・疲れない・使いやすい」ショッピングセンターを目指し、学識経験者や障害者団体等からの意見を設計段階から取り入れ、また、開店後に実施したアンケート調査結果を新規店舗に生かすなど、バリアフリー・ユニバーサルデザインのスパイラルアップを図っている。

● 継続的なスパイラルアップ

平成20年に開店した越谷レイクタウンでは、広大な敷地と建物が分散するなかで学識経験者を交え様々な取り組みにチャレンジするとともに、障害者団体との協議を重ねながら意見を取り入れた店舗設計を行い、平成24年に開店したイオンモール東久留米では、今後の高齢化社会への対応の検討、大学との産学連携や社会貢献、地域との連携などにも取り組み、開店後にアンケート調査を実施し評価を得るなど、次店舗への改善や新たな取り組みを進めている。

また、平成25年に開店したイオンモール幕張新都心店では、広大な面積に複数棟からなる建物・立体駐車場の棟別にサインカラーを揃え、サイン・誘導について高齢者等にも見やすいコントラストや配置とし、エレベーター内にも通常より大きいボタンを設置するなど視認性や利用しやすい工夫、移動の利便性を高める工夫など、今までの研究や取組みを活かしつつ、利用者の利便性向上を図っている。

さらに、イオン直営店では高齢者や介助が必要な方が安心して買物ができるよう、従業員にサービス介助士の取得を推奨し、障害者等へのサービス向上に継続的に取り組んでいる。



通常より大きなボタン 高齢者等にも配慮した腰掛けの設置

● 最新システムの導入

イオンモール幕張新都心店では、最新の駐車場システムを導入するとともに、施設内駐車場の一区画に障害者専用駐車スペース及び入口ゲートを設け、登録車両のみが駐車できるスペース（駐車可能台数43台）を確保している。初回来場の際に障害者手帳を提示し入店後登録を行うことにより、入場時に必要な車番認証あるいは入場用リモコンの貸与を行っている。また、障害の範囲等にかかわらず、一時的なけが人等の利用も認めるなど、幅広い対応を行っている。



登録制障害者専用駐車場

◎ 今後期待される取組み

高齢者や障害者をはじめ多くの人々が訪れる大規模商業施設におけるバリアフリー・ユニバーサルデザイン化への取組みをグループ全体で継続的に推進するのみならず、大学や地域とも連携することにより、さらなるスパイラルアップを図ることが期待される。

喜びの声



イオンモール株式会社
代表取締役社長 岡崎 双一 氏

【コメント】

この度は、バリアフリー化推進功労者国土交通大臣賞をいただき誠にありがとうございます。

私どもイオングループは、お客様第一を基本理念に、高齢者・障がい者の方々をもとより、ご来店いただくすべてのお客様に安全・安心にお買い物いただける様、1994年のハートビル法が制定された当初から認定を目指すとともに、「イオンモール・ユニバーサルデザイン・ガイドライン」を独自に作成し、「迷わない、疲れない、使いやすい」モールづくりのベースとしてまいりました。

今後は、これまでのユニバーサルデザインを更に進化させるとともに、最新技術も取り込み、継続的なスパイラルアップを続けていく所存です。

【受賞者】

イオンモール株式会社

【連絡先】

千葉県千葉市美浜区中瀬1-5-1
TEL 043-212-6450 (代表)

【活動等の経緯】

- 平成6年 ハートビル法全国第1号のジャスコ南方店開店
- 平成7年 日本ではまだ少数ないモール型の大型ショッピングセンターであるイオンモール下田でハートビル法の認定をうける。
以降、グループのショッピングセンター、大型店は全てハートビル法の認定を受けることを目指す。
- 平成17年 リモコン貸出し式身しよう者駐車場システムを共同開発・採用。
- 平成17年 ダイヤモンドシティ熊本クリアにて、商業施設としては初めてユニバーサルデザインを本格的に取り組む。
- 平成19年 ダイヤモンドシティ(株)とイオンモール(株)が合併し、イオンモール(株)となる。
- 平成20年 日本最大のショッピングモールであるイオンレイクタウンにおいて、グループ一体としてユニバーサルデザインに取り組む。
- 平成24年 イオンモール東久留米において、高齢化社会に対応する配慮をしたシニアシフトを研究実践。
- 平成25年 イオンモール幕張新都心において、従来のユニバーサルデザインに加え、最新の技術であるカメラ認証による駐車場誘導システムを取り入れる。

【Web - URL】

イオン株式会社：
<http://www.aeon.info>
http://www.aeon.info/environment/social/heart_bldg.html
イオンモール株式会社：
<http://www.aeonmall.com>

ユニバーサルデザインに配慮した「人にやさしい」駅前広場の再整備

講評

受賞者は、施設の老朽化や歩行者の移動の円滑化等が課題となっていた JR 川崎駅東口駅前広場において、移動困難者への対応をユニバーサル視点に立って取り組んだ、歩行者、バスを優先する駅前広場再編整備計画を策定し、一般利用者のみならず、障害者・高齢者の移動円滑化にきめ細かく配慮した、これまでの都市計画の流れと一線を画する「人にやさしい」バリアフリー化整備に取り組んだ。こうした取り組みを進めた点を高く評価し、表彰することとした。

受賞者の取り組み

■ 取り組みの概要

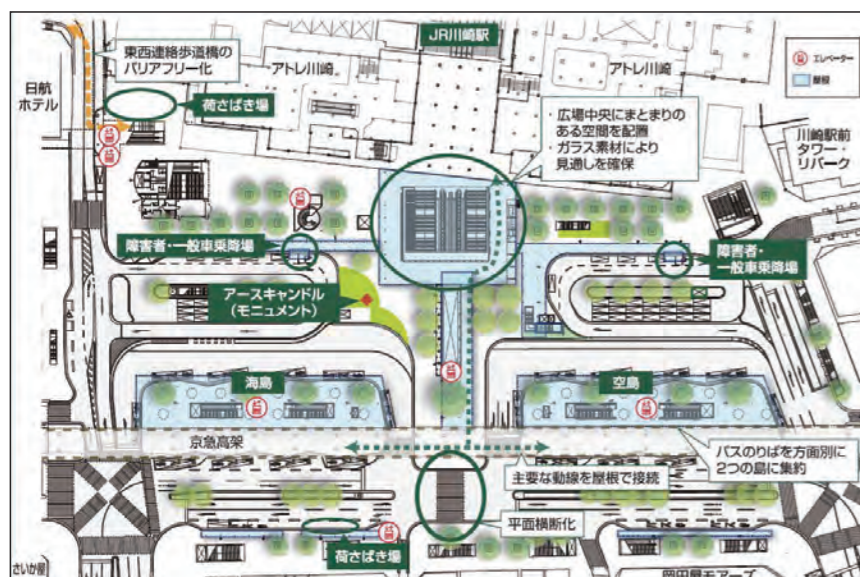
川崎市では、JR 川崎駅東西両地区の回遊性・利便性の向上やバリアフリー化の促進等を図るため、平成 16 年に学識者・市民・公共交通事業者及び商業者等から構成する「川崎駅周辺総合整備計画策定協議会」を設置し、総合整備計画を策定した。

JR 川崎駅東口駅前広場の再編整備にあたっては、障害当事者等からの意見聴取やまち歩き点検など、多角的な視点からの議論を行い、ユニバーサルデザインに配慮した駅前広場の再整備を行った。

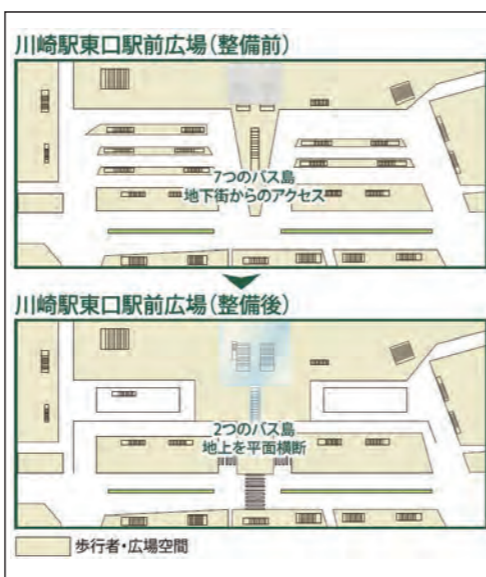
● 歩行者の回遊性とゆとりある広場空間の創設

川崎駅東口駅前広場では、利用者が地上を歩いて直接バス乗り場や市街地へ行けるように7箇所あったバス島を方面別に2箇所に集約し新たな歩行者空間を創出するとともに、地上部と地下街を結ぶエスカレーターやエレベーターを増設し、駅周辺地区全体の回遊性にも配慮しながら、バリアフリー化の行き届いた安心・安全なゆとりある空間を創出している。

川崎駅東口駅前広場再編整備事業（主な取り組み）



バス島の集約とバリアフリー化



● 障害当事者の参画

再編整備事業にあたっては、身体障害者・聴覚障害者・視覚障害者等を交えた「まち歩き点検」を実施し、改善点や要望等を反映した施設整備を行った。



路面素材は滑りづらく・目地の少ないものを採用



車椅子使用者に配慮したバス案内板を整備

● 全国初となるユニバーサルデザインタクシー専用の乗り場整備

駅前整備再編に際し、全国初となるユニバーサルデザインタクシー専用の乗り場を整備した。また、ユニバーサルデザインタクシーの購入にあたり、事業者への補助制度を創設した。



ユニバーサルデザインタクシー専用乗り場

◎ 今後期待される取り組み

「川崎市交通バリアフリー基本構想（川崎駅周辺地区）」に基づき、更なるスパイラルアップを図ることが期待される。

喜びの声



川崎市
川崎市長 福田 紀彦 氏

【コメント】

この度は、川崎駅東口駅前広場利用者の移動円滑化等への取り組みについて、名誉ある賞をいただき感謝申し上げますとともに、これまで御協力頂いた関係者の皆様にあらためて御礼申し上げます。今後とも一層の利便性・回遊性の向上を図るなど、利用者にとってやさしいまちづくりに取り組んでまいります。

【受賞者】

川崎市

【連絡先】

神奈川県川崎市川崎区宮本町1番地
TEL 044-200-3021
(まちづくり局市街地開発部市街地整備推進課)

【活動等の経緯】

- 平成 16 年 7 月 川崎駅周辺総合整備計画策定協議会の設置
川崎駅周辺地区におけるバリアフリー化の促進等に対応するため、学識者・市民・公共交通事業者及び商業者等で構成する協議会を設置（全7回開催）
- 平成 17 年 11 月 川崎駅東口駅前広場平面横断化社会実験の実施
- 平成 18 年 3 月 整備方針(案)への意見募集（パブリックコメント）の実施
- 平成 18 年 4 月 川崎駅周辺総合整備計画の策定
- 平成 18 年 8 月 川崎駅周辺総合整備事業推進会議の設置
具体的な事業推進の方策等の検討を行うために、川崎駅周辺総合整備計画策定協議会から改組（全14回開催）
- 平成 19 年 3 月 川崎駅東口駅前広場再編整備計画の策定
- 平成 20 年 9 月 障害当事者等を交えたまち歩き点検の実施
- 平成 21 年 3 月 川崎駅東西連絡歩道橋整備工事着手
- 平成 21 年 6 月 川崎駅東口駅前広場再編整備工事着手
- 平成 23 年 3 月 川崎駅東口駅前広場再編整備工事及び川崎駅東西連絡歩道橋整備工事完成
- 平成 25 年 6 月 川崎駅東口駅前広場でのUDタクシー専用乗り場整備工事着手
- 平成 25 年 7 月 川崎駅東口駅前広場でのUDタクシー専用乗り場整備工事完了

【Web - URL】

<http://www.city.kawasaki.jp/>

国宝指定を受けた城郭の保存修理観覧時を含むバリアフリー化

講評

受賞者は、国宝であり世界文化遺産でもある「姫路城」において、文化財の保存修理の現場を全国ではじめて公開する見学施設「天空の白鷺」を開館し、エレベーターや身障者用仮設トイレを整備するなどして車椅子利用者でも見学可能な環境を整えたとともに、城内のバリア軽減策としてスロープの設置、路面補強、介助専門員の配置などを行った。このように、文化財保護の観点からハード整備によるバリアフリー化が困難な城郭における取組みを進めた点を高く評価し、表彰することとした。

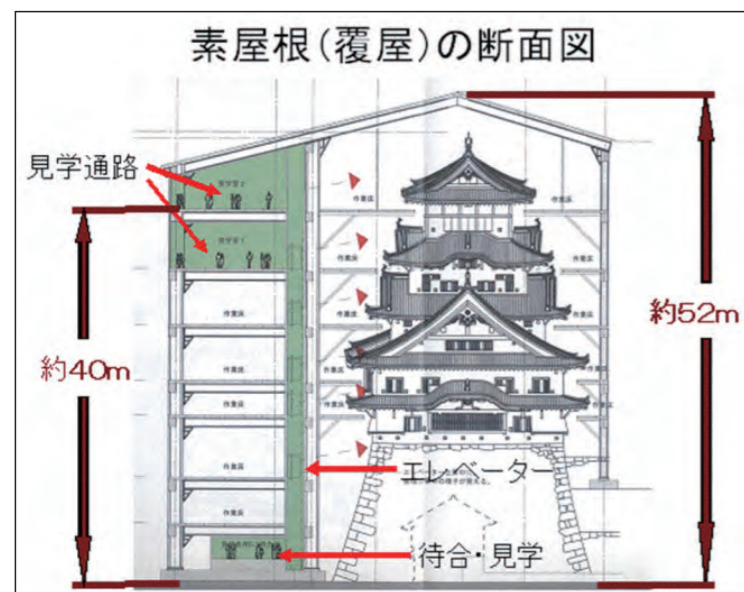
受賞者の取組み

取組みの概要

姫路市では、世界文化遺産にも登録された国宝の姫路城大天守保存修理事業の実施にあたり、工事期間中にその様子を公開する見学施設「天空の白鷺」をバリアフリー対応により開館するとともに、あわせて登閣ルートを実バリアフリー化するなど、坂や階段が多く、また文化財の歴史的価値を損なうおそれがあり、バリアの解消工事には困難が伴う城郭において、車椅子利用者による見学環境を整える取組みを行った。

● バリアフリー対策を講じた保存修理見学施設「天空の白鷺」の開館

姫路城大天守の大規模改修の実施にあたり、世界遺産の価値と大規模改修の啓発・PRの観点から、工事状況を常時公開する全国初の取組みとして、天守閣を完全に覆う修理見学施設「天空の白鷺」を開館した。館内にはスロープやエレベーターを設置し、上層階から大天守の大屋根や最上層を近くで見られるよう連続的なバリアフリー整備を行うとともに、介助専門員を配置して移動のサポートを行うなど、車椅子利用者でも見学を可能とした。



バリアフリー対応の見学施設「天空の白鷺」



施設内に整備したエレベーター

● 城内登閣ルートでのバリアフリー化

保存修理時の公開検討を契機として、登閣が困難な方の見学機会を確保するため、障害当事者も参画した登閣経路のバリア調査を実施し、調査結果に基づき、スロープの設置や路面補修などを行うとともに、多目的トイレの整備や既存トイレの増設・改修を行った。また、急勾配の移動をサポートするため、貸出用に電動アシスト付車椅子を導入した。



登閣ルートに整備したスロープ



貸出用電動アシスト付車椅子の用意

◎ 今後期待される取組み

観光施設としても重要な役割を果たしている文化財において、その保護との兼ね合いの壁を乗り越えて進めたバリアフリー化の取組みを、今後も継続していくことが期待される。

喜びの声



姫路市

姫路市長 石見 利勝 氏

【コメント】

この度は、名誉ある賞を賜り、大変光栄に思っております。

また、関係者の皆様に対し、心より感謝申し上げます。今回の受賞では、世界文化遺産・国宝姫路城の修理見学施設「天空の白鷺」をはじめ、坂や階段の多い城郭において、車椅子利用者や高齢者の方々が安心して見学していただけるようバリアフリー化に取り組んだことが高く評価していただけたと思っております。今春には、保存修理を終えた白垂の姫路城大天守がグランドオープンします。

今後とも、高齢者や障害者等に配慮したバリアフリー化に取り組んでまいりたいと考えています。

【受賞者】

姫路市

【連絡先】

姫路市本町 68
TEL 079 - 285 - 1146 (城管理事務所)
姫路市安田四丁目 1 番地
TEL 079 - 221 - 2541 (まちづくり指導課)

【活動等の経緯】

- 平成 18 年 姫路城大天守保存修理検討会開催
保存修理工事現場の公開とバリアフリー化について検討を行う
- 平成 20 年 登閣経路のバリア調査を実施
- 平成 21 年 10 月 姫路城大天守保存修理工事着手
- 平成 22 年 4 月 大天守を覆う素屋根建設に着手
- 平成 22 年 8 月 バリア調査に基づきバリアフリー整備を実施
- 平成 23 年 3 月 姫路城大天守修理見学施設「天空の白鷺」開館
- 平成 24 年 11 月 「天空の白鷺」の来館者が100万人突破
- 平成 26 年 1 月 「天空の白鷺」閉館
入館者1,843,406人 うち車いす利用者5,870人

【Web - URL】

<http://www.city.himeji.lg.jp/>

講評

受賞者は、日本三大美肌の湯として有名な佐賀県・嬉野温泉において、市や観光協会等と連携・協力しながら、温泉地のバリアフリー化をハード・ソフトの両面で進めてきたことにより、これまで温泉旅行をあきらめていた高齢者や障害者などの受け入れを可能とした。このように、温泉地のバリアフリー化モデルを構築したことは、他地域の温泉に対して大きな示唆をもたらしている点を高く評価し、表彰することとした。

受賞者の取組み

■ 取組みの概要

嬉野バリアフリーツアーセンターでは、高齢者、車椅子利用者、その他の障害者、外国人など様々な人にとってやさしい温泉地を目指して、宿泊施設や商店街のユニバーサルデザイン化などのハード整備に加え、温泉での入浴介助を中心に、宿泊施設の選定や予約、必要な介助器具のレンタルなどのソフト整備を進めている。近年は韓国の自閉症児の団体を受け入れるなど、より幅広い方に対してサービスを行っている。温泉地の整備以外にも、市民参加型の福祉、教育、文化、スポーツに関するイベントや研修を開催するなど、多面的な活動を行っている。

● 温泉地のハード整備

嬉野温泉では誰でも快適に利用できる「ユニバーサルデザイン客室」として13旅館20室を整備したことに加え、館内案内を視覚障害者向けに点字でも作成している。また、温泉街の足湯に車椅子の方でも利用できるスペースを設けたり、「湯のまちユニバーサルデザインのお店」のサインボードを店頭の目立つところに掲出して、各店舗が提供できるサービスを明示している。



車椅子で利用できる足湯



「湯のまちユニバーサルデザインのお店」のサインボード

● 入浴介助

嬉野温泉では障害者や高齢者に配慮した設備が整った温泉施設で、ヘルパーによる入浴介助が受けられる。これにより、嬉野温泉には3世帯・4世帯の親孝行家族旅行や、老老介護夫婦のリフレッシュ旅行等の新たなマーケットが生まれてきている。さらに、車椅子利用者や身体に障害のある方でも簡単に着脱可能なUD浴衣を開発した。このUD浴衣は健常者向けと車椅子利用者向けの2種類で、一般の浴衣と違い、ツーピースで構成されており、腰回りの折り返しが不要なため、着付け等が簡単である。



ユニバーサルデザイン客室内の浴室



UD浴衣

● イベントの開催

嬉野バリアフリーツアーセンターでは、「ひとにやさしい嬉野温泉」のまちづくりとともに、ハンディキャップのある観光客の方々が楽しめる嬉野温泉でありたいとの思いから様々なイベントを行っている。

○湯らっくすコンサート

ハンディキャップを持つミュージシャン、プロ・アマ、様々なジャンルを超えて開催されるコンサート。音楽によって、心のバリアを少しでも無くそうという思いから始められた。

○ニューミックステニス大会

健常者のテニスプレーヤーと車いすテニスプレーヤーがダブルスを組んで試合を行う、新しいスタイルのテニス大会を毎年開催している。



湯らっくすコンサート



ニューミックステニス大会

◎ 今後期待される取組み

情報障害などの課題にさらに丁寧に取り組むとともに、バリアフリーツアーセンターの継続的な運営のための人材育成にも注力されることが期待される。

喜びの声



佐賀嬉野バリアフリーツアーセンター
会長 小原 健史 氏

【コメント】

この度、私ども佐賀嬉野バリアフリーツアーセンターに対し国土交通大臣表彰と言う身に余る賞を授与頂き誠に有難く感謝申し上げますと共に、ご支援頂いた佐賀県及び嬉野市そして多くのサポーターの皆さんはじめ関係各位に厚く御礼を申し上げます。

【受賞者】

佐賀嬉野バリアフリーツアーセンター

【連絡先】

佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙 2202-55
TEL 0954-42-5126

【活動等の経緯】

平成19年 佐賀嬉野バリアフリーツアーセンター設立
平成20年 第1回「ニューミックステニス大会」開催
平成21年 第1回「湯らっくすコンサート」開催
平成22年 嬉野市にて第5回全国UD大会開催
平成24年 UD浴衣開発
平成25年 入浴介助事業開始
平成26年 観光防災アプリ開発

【Web - URL】

<http://ud-uresino.org/udweb/>

特定非営利活動法人 バリアフリーネットワーク会議 空港を観光拠点とするユニバーサルツーリズム

ムの多面的な活動

講評

受賞者は、分野・組織の壁を越え一貫して障害者の立場に立ち、沖縄観光のバリアフリー化、ユニバーサルデザイン化に継続的に取り組んでおり、那覇空港に設置した日本初の空港内観光案内所である「しょうがい者・こわい者観光案内所」は、単なるバリアフリー案内所を超えた総合的なバリアフリーツアー援助システムの空港窓口として優れた機能を有している。こうした、窓口を拠点とした多面的な活動により、ユニバーサルツーリズムの推進において全国の模範となるような取組みを進めた点を高く評価し、表彰することとした。

受賞者の取組み

取組みの概要

特定非営利活動法人バリアフリーネットワーク会議は、那覇空港内に障害者・高齢者等の沖縄旅行をサポートするワンストップ相談窓口となる「しょうがい者・こわい者観光案内所」を設置し、沖縄のバリアフリー対応の観光地等の情報提供や、車椅子・ベビーカー等の貸出を実施している。また旅行への同行や入浴介助なども行っており、修学旅行生からの依頼については無料で対応している。また平成 25 年には国際通りにも「しょうがい者・こわい者観光案内所」を設置し、同様のサービスの他、一時保育や荷物の一時的預かりなどのサービスも行っている。



「しょうがい者・こわい者観光案内所」(那覇空港内)



貸出用の車椅子とベビーカー



「しょうがい者・こわい者観光案内所」(国際通り)

● 人材育成

琉球大学と連携し、観光ケアサポーター（旅行への同行や入浴、食事等の介助を行う人材）を育成する講座を開設し、人材育成に努めている。

● 編集・出版

障害者の方がホテルなどの観光施設で災害にあった際の避難方法をまとめた「逃げるバリアフリーマニュアル」、沖縄県内のバリアフリーに対応した観光施設の紹介や実際に障害のある人が施設に行った際の体験レポートをまとめた「そらくる沖縄」、沖縄の公園のバリアフリー化のあり方をまとめた「沖縄ユニバーサル公園等建設指針」などの編集・出版を行っている。



沖縄ユニバーサル公園等建設指針



そらくる沖縄

◎ 今後期待される取組み

ユニバーサルツーリズムにおける先進的な取組みを継続的かつ組織的に発展させていくことが期待される。

喜びの声



特定非営利活動法人
バリアフリーネットワーク会議
理事長 親川 修 氏

【コメント】

この度は、大変名誉のある賞を頂いたことに心から感謝申し上げます。

今回の賞は、沖縄県や各行政機関、そして観光関連機関の多大なるご協力の賜物であると考えています。特に沖縄県に対しては、名もなく小さな法人である私たちを信じ、最後まで後押し頂いたことに深く感謝申し上げます。

小さな歩みの活動でしたが、今では、年に1万人以上の皆さまに活用される案内所となりました。

今後も超高齢社会における「観光と福祉」の懸け橋となり、沖縄を愛し来訪されるすべての皆さまの大きな「笑顔」がより多く見られる活動をこれからも続けていきます。

【受賞者】

特定非営利活動法人バリアフリーネットワーク会議

【連絡先】

沖縄県沖縄市照屋1-14-14

【活動等の経緯】

- 平成 15 年 NPO法人設立
人工透析観光プログラムを開始。同時に障がい者の旅のサポート事業を開始。
- 平成 16 年 沖縄県福祉保健部より沖縄県バリアフリーマップ事業受託
- 平成 17 年 6月 児童デイサービス事業開始、(現在3施設運営)
12月 県内初のBF観光冊子「チェアウォーカー」発刊
- 平成 19 年 2月 沖縄県知事による「観光バリアフリー宣言」(沖縄県観光バリアフリー化推進事業)
- 11月 那覇空港しょうがい者・こわい者観光案内所設置
- 平成 21 年 3月 沖縄観光案内冊子「そらくる沖縄」発行(年一回発行現在 VO 8)
3月 沖縄県福祉のまちづくり推進功労表彰 県知事賞受賞
9月 沖縄県福祉保健部より沖縄県バリアフリーマップ事業受託
- 平成 24 年 8月 那覇市観光功労者表彰 団体賞受賞
- 平成 25 年 3月 沖縄県福祉保健部よりノンステップバス「そらポート号」導入
7月 那覇市安里に「那覇国際通りしょうがい者・こわい者観光案内所」設置
11月 那覇市松尾に移転、同時に一時預かり保育園設置

【Web - URL】

<http://barifuri-okinawa.org/bfn/index.html>

MEMO

A series of horizontal dotted lines for writing.